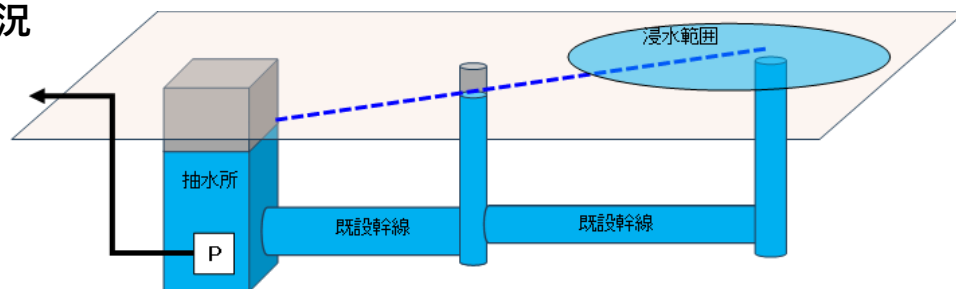


次回検討内容について

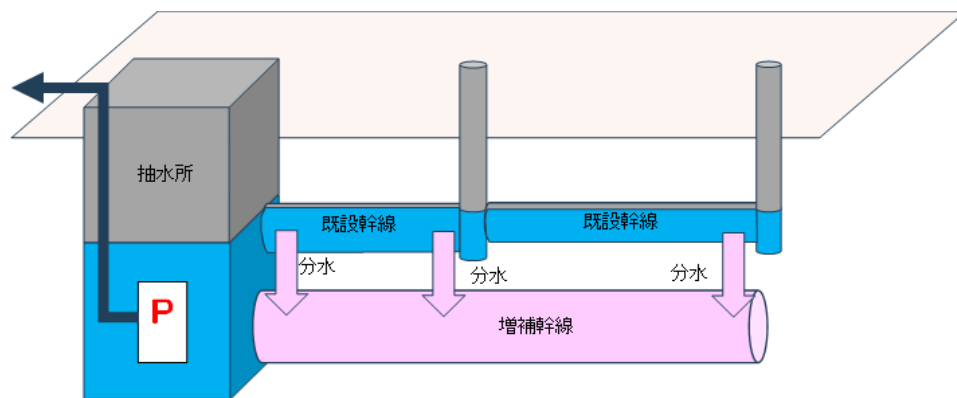
効率的な対策手法について

現況

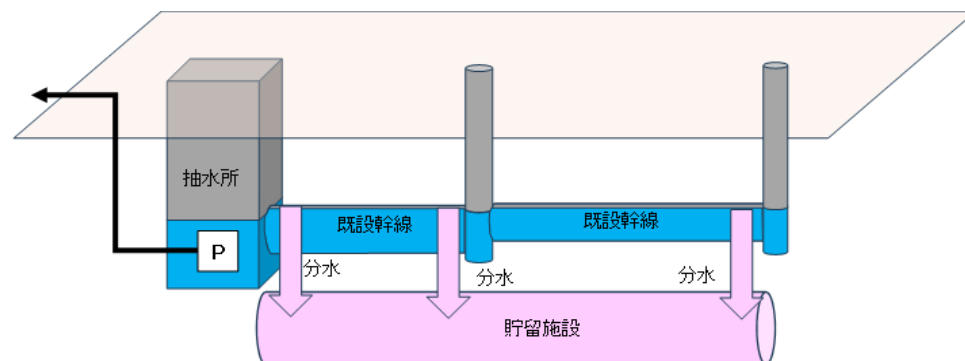


従来の対策手法

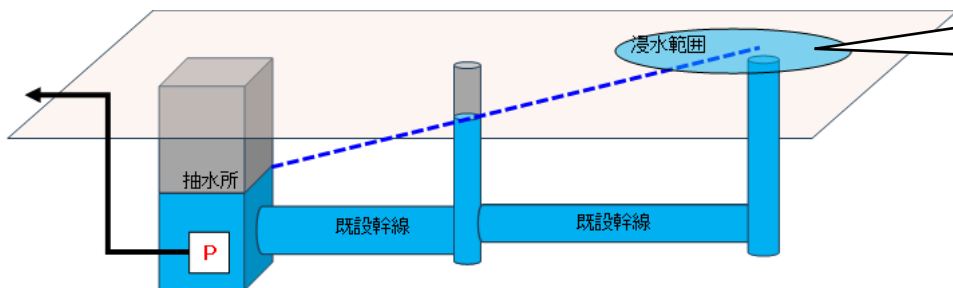
対策手法①：ポンプ施設の増強、増補幹線の整備



対策手法②：貯留施設の整備



対策手法③：ポンプ設備を増強し、管渠の圧力状態を許容



ポンプ設備の更新に合わせ、
可能な限りポンプを増強することで、
一定浸水軽減が可能。
⇒既存施設を活用した効率的な対策手法

ポイント

西大阪地域での整備手法について

- ・ 放流制限のない西大阪地域では、既存施設を活用した効率的な対策手法として、ポンプ設備の更新に合わせた能力増強を行うことが可能。
- ・ ポンプを増強しても溢水が解消しない地域については、別途施設整備などの対策を行う必要がある。

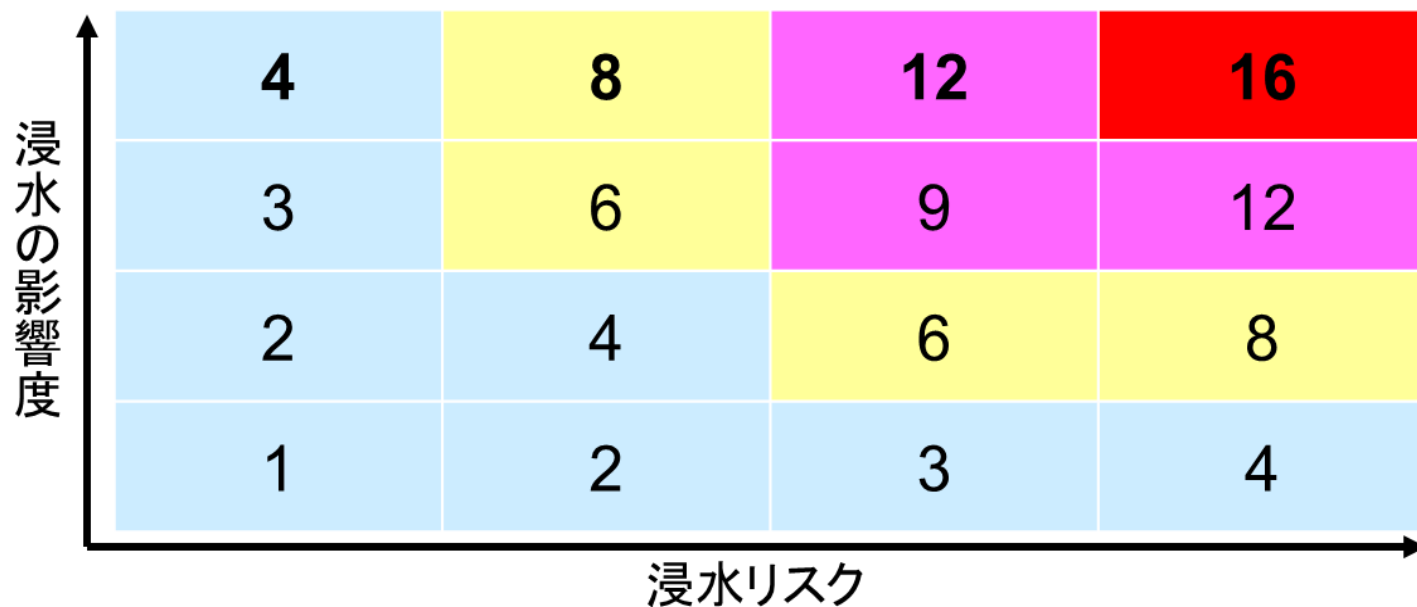
寝屋川流域での整備手法について

- ・ 特定都市河川流域に該当する寝屋川流域では、河川への放流制限があることから、貯留施設の整備、あるいは流域外へ放流する施設の整備について検討が必要。

段階的な整備順序の決定方法

○浸水リスク …浸水実績、浸水想定、浸水要因

○浸水の影響度 …資産分布、商業・業務集積状況、交通拠点施設、主要幹線地区人口分布、地下施設、災害時要配慮者数、防災関連施設



⇒ 幹線流域ごとに優先度判定を行い、優先的に整備する地区を選定